

詠白鷺啄木飛歌

池神力士舞可母白鷺乃梓啄持而飛渡良武

〔枕草子〕鳥は

さぎはいとみるめもみぐるし、まなこゑなどもうたてよろづになつかしからねど、ゆるぎのも
りにひとりはねじとあらそふらんこそをかしけれ。

〔新撰六帖〕さぎ

いり玄ほのひかたにきゐるみとさぎをいさりに出るあまかとやみん

〔夫木和歌抄〕水鳥

霜むすぶ入江のまこもすゑわけてたつみとさぎのこゑもさむけし

〔鹽尻〕尾州北中島郡熱田宮地花池村に、三明神の社あり。○ 註土俗古へより鷺を白鳥と呼て、一
村の男女食はず。

〔新撰字鏡〕鷺陀骨反、志支。

〔倭名類聚抄〕鷺 玉篇云、鷺音籠、楊氏抄云、野鳥也。

〔箋注倭名類聚抄〕按廣雅、鷺鷟也。集韻、鷺、小鷗也。則知鷺是鷗屬非之歧。又按漢五行志注、張晏曰、鷗鳥赤足橫文、陳藏器曰、鷗如鶴、背長色蒼，在泥塗間爲鷗鷗聲、人取食之如鶴。蘇秦云、如鷗蚌之相持也。說文云、鷗知天將雨則鳴故知天文者冠鷗。李時珍曰、今田野間有小鳥，未雨則啼者是矣。是

可以充之伎

〔類聚名義抄〕鳴シギ 鶩音龍、シギ、

〔下學集上〕氣形鳴鳥也 搖

〔鹽囊抄〕鳥類字 鶩

名稱